

青少年育成センターだより

第93号 2020.8.15

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター

0835-23-3013



今年は、新型コロナの関係で夏休みは短縮です。子どもたちは、学校で勉強。暑い中大変です。暑さにも、コロナにも負けるな、子どもたち!!

世界の子どもたちは・・・

みなさんは、「国境なき医師団（MSF）」という団体についてご存知でしょうか？

国境なき医師団とは、「1971年にフランスで設立された、非営利で国際的な民間の医療・人道支援団体」のことです。命の危機に瀕した人びとの緊急医療援助を主な目的とし、医師、看護師をはじめとする海外派遣スタッフ・現地スタッフ・事務局スタッフの合計約4万7000人が、世界約70の国・地域で活動しています。（2018年度）

世界には、厳しい貧困と命の危機にさらされている子どもたちがたくさんいます。そのような子どもを救うために、日々活動をしている人たちがたくさんおられるのです。本当に頭が下がる思いです。

その「国境なき医師団」の広報誌の中に次のような記述がありました。

・・・2009年、当時「ボコ・ハラム（ナイジェリア）」と呼ばれた武装勢力と政府軍との衝突が起き、それ以来多くの住民が家を追われた結果、現在北東部3州では180万人が避難民となっています。ある日、自分の村に武装勢力が押し寄せ殺害や脅迫を始めます。着の身着のまま持てるすべての力で逃げ、その混乱の最中に家族とはぐれます。何日も歩き、何とかたどり着いた避難民キャンプでは、食べ物も住環境も医療も十分ではなく、学校も仕事もないので完全に援助に頼らないといけません。暴力の記憶や経験、目の前の苦しい状況、終わりが見えない不安が心をおしばんでいきます。これが10年間、ナイジェリアの避難民の「日常」となっているのです。・・・MSFはこの地域で、基礎医療、栄養治療、感染症対応、性暴力被害のケアや心のケアなど行っています。劣悪な衛生環境の中、特に子どもたちはマラリアやはしかなどの感染症に次々とかかり、栄養失調と合わさり入院治療が必要な子が後を絶ちません。・・・

この文章を読まれて、どのように思われたでしょうか。

日本にも、貧富の差があり、恵まれない子どもたちもたくさんいます。でも日本には、国内で紛争があるわけではなく、同じ国民から命を奪われることはありません。その分、まだまだ、恵まれていると言えるでしょう。今回このような記事を載せたのは、日本の子どもたちに、「まだまだ君よりも大変な思いをしている人がいるよ。負けないで」と言っているわけではありません。

世界には、国内で紛争があったり、近隣国との争いがあったり、病気がまん延していたりと一日一日を生きていくうえで大変な思いをしている人たちが多いためです。日本の子どもたちには、世界にはそのような国があるということを知っておいてほしいと思います。そのことにより、自分の国、そして自分自身のことを知り、これから自分はどのように生きていったらいいのかを考えてほしいと思い、「国境なき医師団」の記事を紹介しました。

日本の子どもたちには、グローバルな社会で生きていくことができる力を身につけ、できれば社会のため、人のために役に立つ人間になってほしいと思います。そこで、家族と一緒に世界の国々のことについて話し合ってみられることを提案します。

（文責＝青少年育成センター指導員 藤村）

